



発行：自由ヶ丘地区
コミュニティ運営協議会
住所：自由ヶ丘3-12-11
TEL：32-5594 FAX：35-3250
メール：jiyugaoka-cc@oboe.ocn.ne.jp
http://www.jiyugaoka-cc.com/

自由ヶ丘人口調査
【令和8年2月28日現在】
世帯数 6,417世帯
人口 14,421人
男性 6,842人
女性 7,579人

『地区防災計画のその先』



2月15日に開催された地区防災計画会議では、2年目の計画のまとめとなりました。各自治会の特性を生かし、計画の実施や見直しを行いました。3年目は、さらに計画を見直し災害が起こった際、確実に実行できるような仕組みを確立していきます。令和7年度の各自治会の活動を以下にまとめています。



○自由ヶ丘第1区会

防災研修の実施、防災士によるクロスロード、夏祭り・餅つきでの「ながら防災」、伝達訓練の実施

○自由ヶ丘第2区会

防災士を交えて特別防災委員会、防災備品の点検、子どもたちとまち歩き、情報伝達・避難訓練、餅つきでの「ながら防災」

○自由ヶ丘第3区会

防災メールの登録の推進、要支援者の把握、防災倉庫の設置準備、福祉会の活動の活性化、避難訓練での炊き出し

○自由ヶ丘南第1区会

事前防災に注力した計画の見直し、自助の最大化、ボランティアメンバーの拡充、伝達訓練の実施

○自由ヶ丘南第2区会

内水ハザードマップの見直し、子どもたちとまち歩き、緊急連絡網の範囲拡大、防災士によるクロスロード、要支援者の見直し

○自由ヶ丘南第3区会

LINEを用いた情報伝達訓練、次年度役員交代後すぐに再度実施予定

○自由ヶ丘南第4区会

自治会通信で取り組みについての回覧、Googleフォームを使った連絡網の整備、組織体制の見直し（防災士の位置づけ）

○青葉台第1区会

防災体制の見直し、伝達方法の見直し、防災に関する活動実績27件、回覧板での防災情報の周知、要支援者対策の実施、伝達訓練の実施

○青葉台第2区会

一斉清掃での「ながら防災」、子どもを含む要支援者の把握、医療従事者（約20人）や搬送支援者（約100人）の把握

ジェンダー平等推進会

無自覚の差別 マイクロアグレッション



「言葉があるから」のDVDの鑑賞と講座を、2月11日に会議室で開催しました。中学生も参加してくれました。

マイクロアグレッションは、日常何気なく使っている会話の中に偏見による決めつけがあること。例えば、海外の人が感じる日本人女性は、「優しく、礼儀正しく親切で正直、オシャレで女らしい」その様な思い込みをされていると、逆にそうでない自分が否定されたように感じ、声を上げづらくなる人もいられるかもしれません。会話の中に悪意はなくても決めつけて伝えるのは、相手をおとしめたり、傷つけてしまうこと、行為者は自覚なく行っていることを「マイクロアグレッション（小さな攻撃性）」といいます。このマイクロアグレッションという言葉無くすためには、お互いの「境界線」（境界線とは、個人の安心・安全を守るために人のからだや持ち物、気持ち、行動の周辺に引かれている目には見えない想像上の線のこと）を理解することが大切だと思いました。

【参加者の感想】

- これから生きていくなかで、人とたくさん関わるので、いろんなことを意識していきたいです。
- このようなお話を聴く機会は、私たちにとって大変貴重なものであり「境界線」という概念にとっても深く感服いたしました。
- ことばって大事だ。表現の仕方とか？難しいと思いました。



青少年育成部会

なか森はおまつり騒ぎ！



2月14日（土）は、年に1度恒例の「なか森開放イベントデー」でした。いつものなか森開放に加え、昔遊び、木工、焼きそばなど盛りだくさんの内容で、心もお腹も笑顔もいっぱいのイベントになりました！

受付を終えた子どもたちは、速攻でなか森に吸い込まれていき、森の中からは「めっちゃ楽しい！」の元気な声が聞こえてきました。友達と鬼ごっこをしたり、急斜面を走り回ってもへっちゃらです！また、昔遊びコーナーでは、コマ、けん玉、竹馬、お手玉…子どもと大人が競って楽しんでいます。さらに、木工コーナーでは、大工さん見習いが始まりました。思い思いに材木を持ってきては、のこぎりで切ったりトンカチで釘を打ったり。子どもたちから「手伝ってください！」の声がかかると大人も大ハッキリ。なかなかのてきばえの工作…いや家具ができあがっていました。お昼が近づくと、おやじの会の焼きそばには長蛇の列！大人気です。子どもたちは「焼きそばおいしい〜」「おかわりしていいと？」笑顔がはじけていました。「遊ぶ、食べる、笑う」なか森開放イベントには、子どもも大人も元気になる三大要素が溢れていました。このなか森をいつまでも守っていきたいです。今、こうして遊んでいる子どもたちの心の中に、なか森の思い出が残り、大人になった時に「なか森を守りたい！」と戻ってきてくれたらうれしいですね。待ってるよ〜！



頭の中の設計図をもとに、作り始めます。材料も自分で選び、助けて欲しい時は、「お願いします」と言えます。

おやじの会の焼きそばは、相変わらず大人気！お腹を空かせて今か今かと待っています！



シリーズ企画 コミュニティスクール... そもそもの話 NO.9

さて、今回は、実際に子どもたちの声を聞いてみよう！ということで、9年生にインタビューしました。答えてくれたのは堤淳人（つつみ あつひと）さん(左)と惣城裕太（そうじょう ゆうた）さん(右)です。

Q：ふるさと学習で取り組んだ内容を教えてください。

A：昨年の9年生が作った「セゾン・ド・ムナカタ、～宗像の食の魅力がここに詰まっています～を宣伝し、広めていく中で、もっと宗像を知ってもらおうと、様々な活動をしました。

Q：知ってもらって、とても難しいと思うけど、どのような方法で広めたの？

A：ふるさと納税(登録するためサイトのレイアウトやコラボ商品の企画)、広報(様々なメディアを活用してPR)、イベント(様々な場所・イベントで販売するための企画立案)、クラウドファンディング(広める活動を支える資金を集める)の4つのグループに分かれて、それぞれに特化した活動をしました。

Q：難しいなと感じたことはありましたか？

A：その商品の魅力をどう伝えるか？アピールするか？を広報の専門の方に教えていただいて乗り越えました。チラシなどはび切など期限もあり、そこを守るということにも苦戦しました。また、考えている時は、うまくいくぞというイメージだけで進むのですが、やはり、途中思い通りにならないことがあった時もある、そういう時は、うまくいかなかったことを次に生かせるように考え直すということをしていきました。

まだまだ伝えたいことはたくさんあるのですが、このインタビューで気付いたことがあります。彼らは、大人社会のリアルに近い模擬体験をしています。1つの商品売るためにニーズを追求し、どうアプローチするか？再度買ってもらうためには？などリアルな世界で戦略を考えていることに驚きしかありませんでした。また、小学生から繋がってきた「ふるさと学習」で宗像を知り、もっと知ってもらおうと外へ活動してくことで、実は、地域の温かさや優しさを実感し、子どもたちの中に「宗像っていいなあ〜」という気持ちが強くなり、自分たちにももっと宗像でできることがある！と気付いていることです！これこそがコミュニティスクールの醍醐味ではないでしょうか？

